作成日：2018 年 11 月 1 日

製品安全データシート

1 製品および会社情報

製品名：プレミアムシリーズ チェーンルブ ペーストタイプ

整理番号：13722661-181101

製品番号：13722661

会社名：株式会社カスタムジャパン

住所：〒577-0814 大阪府東大阪市南上小阪 9-5

担当部門：研究開発室

電話番号：06-6634-1739　FAX 番号：06-6634-8239

2 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性／引火性ガス	分類対象外
	可燃性／引火性エアゾール	区分 1
	支燃性／酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	分類対象外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	分類対象外
	自己発熱性化学品	分類対象外
	水反応可燃性化学品	分類対象外
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類対象外
健康に対する有害性	急性毒性（経口）	区分外
	急性毒性（経皮）	区分外
	急性毒性（吸入：気体）	区分外
	急性毒性（吸入：蒸気）	区分外
	急性毒性（吸入：ミスト）	区分 4
	皮膚腐食性／刺激性	区分 2
	眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	区分 2A
	呼吸器感作性	区分外
	皮膚感作性	区分外
	生殖細胞変異原性	区分 2
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分外

	特定標的臓器毒性（単回ばく露）	区分 2（肺）
		区分 3（麻酔作用）
	特定標的臓器毒性（反復ばく露）	区分 1（肺、皮膚）
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生急性有害性	区分 3
	水生慢性有害性	区分 3

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル

注意喚起語　　危険

危険有害性情報

毒薬・劇薬　　該当なし

危険性　　引火性を有する液体であり、蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。密閉された場所で熱を加えると爆発の危険がある。

有害性　　気化物質は眠気やめまいを起こす可能性がある。液体に触れると目、呼吸器系および皮膚を刺激する。水生生物に有毒であり、水生環境に長期的な悪影響を及ぼすことがある。

3 組成及び成分情報

単一・混合物の区別：混合物（エアゾール）

物質名	化学式	CAS No.	成分構成比（%）
炭酸ガス	CO_2	67-63-0	10
プロパン	C_3H_8	74-98-6	5-10
ブタン	C_4H_{10}	106-97-8	5-10
水素化精製重質ナフサ	—	64742-48-9	35-40
ナフサ水素化精製軽質留出油	—	64742-49-0	10-19.9
防錆添加剤	—	747A	1-5

4 応急措置

飲み込んだ場合　　飲み込んだ場合、嘔吐させないこと。

	嘔吐するようであれば、体の左側が下になるように寝かせ気道を確保する事。 眠気を起こしているまたは意識がもうろうとしている患者に液体は与えないこと。 水を与え、口をゆすがせ、患者が飲める量の水分をゆっくり与えること。 専門の医師に相談する事。
目に入った場合	直ちにまぶたをおさえ流水で十分に洗い流すこと。 上下まぶたを持ちあげ目玉から離して完全に洗浄する事。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外して洗眼すること。 異常がある場合はすぐ病院へ患者を移動し、医師の診断を受ける事。
肌に付着した場合	汚染した衣服や靴を脱ぎ、触れた部位を流水で十分に洗い流すこと（あれば石鹸も使用)。 皮膚に炎症が生じた場合は医師に相談する事。
吸入した場合	患者を寝かせ暖かくしゆっくり休ませること。 必要であれば病院へ搬送し、医師の診断を受ける事。 呼吸が停止している場合には人工呼吸を行い、呼吸困難な場合には 酸素吸入を行うこと。

5 火災時の措置

消火剤	泡、化学粉、乾燥砂、炭酸ガス
消火方法	適切な保護具を着用し、可燃性物質を取り除く。風上から消火を行う。

6 漏出時の措置

少量の流出

ただちにこぼれたものを拭き取ること。

肌や目に付着しないようにし気化物質を吸入しない事。

防護服、不浸透性の手袋、防護ゴーグルを着用する事。

点火する可能性のものは全て停止し、風通しを良くする事。

安全であれば、漏れのある缶は屋外の容器に入れ、点火の可能性のあるものから遠ざけて圧がなくなるまで置いておく。

損傷のない缶は集めて安全な場所に保管する事。

大量の流出

作業者・関係者を風上へ移動させること。

関係者に場所を知らせ、危険であることを知らせる事。

激しく爆発する可能性がある。

呼吸補助器と防護手袋を着用すること。

可能な限り下水道や排水口等に入らないようにする事。

たばこ、裸電球、熱または点火の可能性のあるものは厳禁。

風通しを良くすること。

乾燥砂、土、不活性物質、バーミキュライト等で吸収、カバーする事。

安全であれば、漏れのある缶は屋外の容器に入れ、点火の可能性のあるものから遠ざけて圧がなくなるまで置いておくこと。

損傷のない缶は集めて安全な場所に保管する事。

残留物を集め密閉しラベルを張ってドラム缶に入れ処分する事。

7 取扱い及び保管上の注意点

オリジナルの容器のまま耐火区域で保管する事。

ピット、地下室等、気化物質が充満しえる場所には保管しない事。

たばこ、裸電球、熱または点火の可能性のあるものは厳禁。

涼しい、乾燥した、風通しの良い場所に垂直に保管する事。

気温 40℃以上の場所に保管しない事。

定期的に漏れをチェックし容器を破損から守ること。

8 ばく露防止及び保護措置

管理濃度　　設定なし

許容濃度

CAS-No.	名称	[mg/m3]	[ml/m3]
67-63-0	2-プロパノール	500	200
74-98-6	プロパン	1800	1000
106-97-8	ブタン	2400	1000
64742-48-9	水素化精製重質ナフサ	1000	200
64742-49-0	ナフサ水素化精製軽質留出油	1000	200

設備対策　　取扱設備は防爆型を使用すること。

屋内作業場での使用は排気設備を設ける事。

取り扱い場所の近くには高温、発火源を置かれない設備にすること。

保護具　　状況に応じ、有機ガス用防毒マスク、保護眼鏡、保護手袋、保護作業服を使用すること。

9 物理的及び化学的性質

外観　　エアゾール・帯黄色

臭い　　ガソリン臭あり

pH　　該当しない

沸騰範囲	データなし
融点	データなし
凝固点	データなし
分解温度	データなし
引火点	0℃以上
発火点	データなし
爆発範囲	(下限)1.1%、(上限)11% （共に参考値）
比重(密度)	0.6825g/cm3 (25℃)
蒸気圧	ca. 3000-3400(20℃)
溶媒濃度	ca. 27.5%

10 安定性及び反応性

安定性	通常条件で安定。過熱や燃焼により分解する。
避けるべき条件	50℃以上の気温の場所もしくは火元（火炎、火花）の近くで使用すること。

11 有害性情報

飲み込んだ場合	摂取する事により、吐き気、痛み、吐き気を催す。呼吸により吐物が肺に入ると致命的な肺臓炎を起こすことがある。
目に入った場合	構成成分は目に重度の刺激を与え炎症を起こす可能性がある。 繰り返しまたは長期間刺激を放置すると結膜炎になる可能性がある。
肌に付着した場合	スプレー噴霧は不快感を与える可能性がある。肌への吸収により毒物的影響が現れる可能性がある。構成成分は元の肌の状態を目立たせる可能性がある。繰り返しまたは長期間刺激を放置すると皮膚炎（非アレルギー性）を起こす可能性がある。この皮膚炎はしばしば皮膚の赤み（紅斑）や表皮の腫れとなってあらわれる。組織学的にスポンジ状層の細胞間の浮腫や表皮の細胞間の浮腫が見られることがある。
吸入した場合	気温が上昇すると吸入時の危険も増加します。 高濃度の気化物質を吸入すると吐き気を伴う咳きや肺の炎症、中枢神経不振、頭 痛やめまい、反応が鈍る、疲労感や組織調整の破滅などを起こす可能性がある。 高濃度の環境に長期間いると昏睡状態に陥り、死に至る可能性がある。 警告：意図的な高濃度気化/吸入は致命的である。

12 環境影響情報

水生生物に有毒。

水生生物には長期的な悪影響が生じる可能性がある。

13 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄は必ず中身を使い切り、各自治体の条例に従って行うこと。 事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、または許可を受けた産業廃棄業者等に委託して処理する事。
汚染容器及び包装	必ず中身を使い切り、中身がないことを確認して、各自治体の条例、関連法規に基づいて廃棄する事。

14 輸送上の注意

1.輸送の際は、容器漏れのない事を確認し、荷崩れのないように処置を講ずること。

2.引火性エアゾールの為「火気厳禁」

共通 ： 取扱及び保管上の注意の各項に従う。

陸上輸送 ：消防法及び道路法などの定めるところに従う。

海上輸送 ：船舶安全法に定めるところに従う。

航空輸送 ：航空法に定めるところに従う。

国連分類及び国連番号

国連分類 ：危険物クラス：2.1

国連番号：1950

パッキンググループ：なし

15 適用法令

消防法	危険物第 4 類第 1 石油類危険等級Ⅱ
労働安全衛生法	危険物、通知対象物を含有する。(プロパン、ブタン)
PRTR 法	非該当
船舶安全法	高圧ガス(エアゾール)
海洋汚染防止法	非該当

16 その他の情報

参考文献	JIS Z 7253 化学品の分類および表示に関する世界調和システム（GHS）改訂 2 版 各原料メーカーの SDS
備考	使用においての環境及び条件については、弊社がコントロール出来かねるため、本情報の使用によって直接的または間接的に損失もしくは損害が生じたとしても、弊社はいかなる責任を負わない。 また本データシートの記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しているが、含有量、物理化学的性質、危険有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではない。

この情報は新しい情報を入手した場合、追加又は改訂されることがある。

又、注意事項は通常の取扱いを対象にしたものなので、特別な取扱いをする場合には、用途、用法に適した安全対策を実施の上で使用すること。